ぬまづの文化ＦＢページ

タカオさんです。

ジッキー２号です。
よろしくね！

沼津市文化財センターへようこそ！

遺跡から沼津の歴史を知ろう！

文化財センターでは、文化財の保護や調査を行い、昔の人々が残した大切な地域の宝を守っています。この本ではセンターの展示資料や役割をご紹介します。

沼津市文化財センター

Ｐ２～３／遺跡等から見た沼津の歴史　Ｐ４～５／旧石器時代　Ｐ６／縄文時代
Ｐ７／弥生時代　Ｐ８／古墳時代　Ｐ９／古代　Ｐ10～11／鎌倉～江戸時代
Ｐ12～13／高尾山古墳　Ｐ14／沼津市指定文化財等一覧
Ｐ15／沼津市内の主な遺跡　裏表紙／文化財センターの紹介

主な日本の出来事と沼津の遺跡を年表にまとめました

日本の出来事	沼津の出来事（遺跡等）
40,000年前▼ **旧石器時代**	
・日本列島にヒトが到達する	愛鷹山にヒトが住みはじめる（井出丸山遺跡）
・最寒冷期が到来する	愛鷹山で一部刃部を磨いた石斧が使用される（土手上遺跡他）
・除々に温暖化が始まる	愛鷹山で陥穴猟が行われる（渕ケ沢遺跡他）
	愛鷹山で盛んに狩猟が営まれる（子ノ神遺跡）
	愛鷹山で石囲炉が使用される（休場遺跡・渕ケ沢遺跡）
15,000年前▼ **縄文時代**	
・縄文土器が使われ始める	愛鷹山で竪穴住居が造られる（葛原沢第Ⅳ遺跡）
・温暖化の影響で海水面が上昇する（縄文海進）	愛鷹山に集落が増加する（清水柳北遺跡・元野遺跡）
	海岸地域の集落が発達する（長井崎遺跡）
B.C.500▼ **弥生時代**	
・九州に水稲稲作が普及する	浮島沼周辺で稲作が営まれる（雌鹿塚遺跡・雄鹿塚遺跡）
・邪馬台国の卑弥呼が魏国に使いを送る（二三九年）	愛鷹山に大集落が営まれる（植出北遺跡・北神馬土手遺跡）
A.D.250▼ **古墳・飛鳥時代**	
・箸墓古墳が造られる	スルガの王の墓が造られる（高尾山古墳）
・大仙古墳が造られる（五世紀）	海岸沿いに前方後円墳が造られる（神明塚古墳）
・仏教伝来（六世紀）	愛鷹山に前方後円墳が造られる（子ノ神古墳・長塚古墳）
・大化の改新（六四五年～）	円墳や横穴墓が数多く造られる（石川古墳群・江浦横穴群）
	古代寺院が造られる（日吉廃寺跡）

遺跡等から見た沼津の歴史

沼津市文化財センターでは、沼津市域にある旧石器時代から江戸時代の遺跡の内、主な遺跡の調査成果について紹介しています。

市内最古の遺跡は約3万7千年前の井出丸山遺跡です。出土した黒曜石製の石器の原産地を調べると、神津島産のものがあり、この頃からすでに海を渡って人々の移動があったことがわかります。

旧石器・縄文時代は、狩猟採集生活であったため、遺跡の多くは愛鷹山麓で見つかります。さらに約1万5千年前（縄文時代草創期）の葛原沢第Ⅳ遺跡では定住化を示す住居跡が発見されています。

約2千9百年前には富士山の山体崩落により火山性土石流が発生し、一時的に遺跡がほぼ見られなくなりますが、弥生時代には集落が営まれるようになりました。弥生時代の終わり頃には低地から丘陵上に居住地が移っていく傾向が見られ、愛鷹山麓に集落が増加していきます。

古墳時代には駿河地域の最初の支配者が現れ、東日本最大級かつ最古級の前方後方墳である高尾山古墳が築造されます。その後仏教文化の波及に伴い寺院建立が

A.D.700▼

奈良・平安時代

- 平城京遷都（七一〇年）
- 国分寺建立の勅（七四一年）
- 平安京遷都（七九四年）

仏教思想に基づき火葬された骨が納められた墓が造られる（清水柳北1号墳）

平地に大集落が営まれる（御幸町遺跡・藤井原遺跡）

現在の沼津駅周辺にも大集落が営まれる（上ノ段遺跡）

A.D.1200▼

鎌倉・室町時代

- 鎌倉幕府開府（一一八五年）
- 吾妻鏡の成立（一三〇〇年頃）
- 鎌倉幕府滅亡（一三三三年）
- 室町幕府開府・南北朝の統一（一三九二年）
- 応仁の乱（一四六七年）

沼津市内で経塚が造られ始める（香貫山経塚）

阿野全成が阿野荘（沼津市西部）を与えられる

A.D.1500▼

戦国時代

北条早雲が興国寺城を与えられる（興国寺城跡）

武田氏が三枚橋城を築城する（三枚橋城跡）

北条氏が長浜城を築城する（長浜城跡）

興国寺城・三枚橋城が廃城となる

水野氏が三枚橋城を元に沼津城を築城する（沼津城跡）

A.D.1600▼

江戸時代

- 江戸幕府開府（一六〇三年）

徳川家臣団が沼津へ移住する

沼津兵学校が開校される

現代▼

明治時代以降

- 明治維新

地方にも浸透し、大岡地区に日吉廃寺が造営されます。またこの頃に火葬された骨が納められた墓である清水柳北1号墳が築造されました。

奈良時代になると、主要街道を結んだ大規模な集落が営まれ、平安時代になると富士山の火山活動が活発になったことや末法思想の流行により経塚が造られるようになります。

鎌倉時代では確認できる遺跡は少なくなりますが、経塚や今も残る岡宮浅間神社や光長寺などが建立されます。なおこの時期の史料である『吾妻鏡（あずまかがみ）』には「沼津海」として記載があり、「沼津」という地名の初出とされています。

室町時代になると、沼津周辺は国境の要衝として、軍事的に重要な地域となりました。特に興国寺城は、北条早雲により東国における戦国時代の幕開けの舞台となりました。また後に秀吉軍の拠点にもなった三枚橋城は武田氏が築城し、それに対抗するため北条氏が長浜城を築城しました。しかしいずれの城も江戸時代に入り廃城となってしまいました。

このように発掘調査によって、沼津は大昔から連綿と人々が暮らす地域であったことが分かっています。

旧石器時代

◆このころの沼津◆

今から4万年から3万年ほど前に、私たちの祖先である新人（ホモ・サピエンス）が、大陸から日本に渡ってきました。石器を使い、狩りや採集を行いながら、移動する生活を営んでいた、この時代を旧石器時代といいます。

このころの日本は、寒冷な気候と言われる氷河時代の中でも、比較的温暖な時期にあたり、大陸からやってきたナウマンゾウ、オオツノジカ、野牛などの大型の動物がいたとされます。人々は10人前後の仲間と共に、簡単な草ぶきの小屋に住み、火を使って暮らしていました。

沼津市の北方にそびえる愛鷹山麓でも約3万7千年前の地層から、いくつかの遺跡が見つかっています。

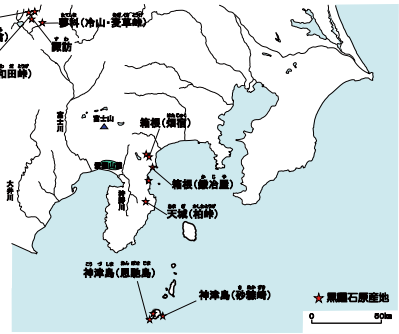
また黒曜石も数多く出土しており、その産地から当時の人々の移動の範囲が分かってきています。

愛鷹山麓最古の遺跡　井出丸山遺跡

◇展示のみどころ

海を渡った人々

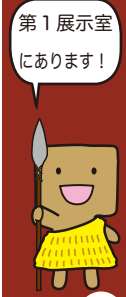
沼津市で最も古い遺跡は、愛鷹山麓で発見された井出丸山遺跡です。発掘調査で、古富士火山の火山灰を3mほど掘り下げると、約3万7千年前の地層から黒曜石を打ち欠いて作った石器が出土しました。自然科学分析を行った結果、伊豆半島の南方にある神津島産の黒曜石を使っていることがわかりました。この島は伊豆半島から海を隔て約40km離れています。おそらく舟を作って海を渡り、黒曜石を手に入れ、再び愛鷹山麓に戻ってこの石器を作っていたと考えられます。



神津島産黒曜石製石器
（井出丸山遺跡）

陥穴（おとしあな）を使った狩猟

愛鷹山麓の渕ケ沢遺跡では、3万1千年前の地層から狩猟の跡として円形の陥穴が10基発見されています。陥穴を使った狩りをしていたことを証明できるのは日本だけであり、中でも愛鷹山麓から箱根山麓にかけては、これまでに約170基以上の



陥穴が発見され、国内でも有数の陥穴猟が行われた地域として知られています。

陥穴の形は、直径が約1.2m、深さが約1.4mの大きなバケツのような形です。これらは獣が通る道に沿って、尾根を横断するように約7m間隔で掘られていました。

仲間と打合せをして掘る場所を選んで穴を掘り、獲物を追いかけ、穴に追い落として狩りをしていたと想像できます。

陥穴（渕ヶ沢遺跡：いずれも静岡県埋蔵文化財センター提供）

陥穴猟の想像図

石囲炉（いしがこいろ）跡

渕ヶ沢遺跡では、約1万8千年前の地層から、石で囲われた炉の跡が4基発見されました。周辺からナイフ形の石器が出土したので、旧石器時代の人々が使った炉の跡と考えられています。このような炉の跡は全国で40基ありますが、その内の17基が愛鷹山麓から箱根山麓に集まっています。

石囲炉跡（渕ヶ沢遺跡）

刃を磨いた石斧

旧石器時代は石を打ち欠いて石器を作りますが、例外的にオーストラリアと日本では、石斧の刃を磨いて使っていました。

愛鷹山麓でも約3万4千年前の地層における土手上（どてうえ）遺跡、清水柳北遺跡、西洞（にしぼら）遺跡、中見代（なかみよ）第Ⅰ遺跡から、同様の石斧が出土しています。ほとんどが丹沢山地（神奈川県）産の緑色凝灰岩であり、そこまで人々が移動していたと考えられます。

こんなに違う！　旧石器時代の石器の変化

愛鷹山麓の遺跡で出土した石器を比較してみると、柄を取り付け単独で使用する単純なものから、加工して大量生産し、刃を取り換えて使用するものへ変化していることが分かります。

約 34,000 年前の台形様石器と斧形石斧

約 16,000 年前の細石刃と細石刃石核

刃を磨いた緑色凝灰岩製石斧（左）
丹沢山地産の緑色凝灰岩原石（右）

縄文時代

◆このころの沼津◆

旧石器時代の終わり頃、「氷期」と呼ばれる寒い時期が終わり、温暖な気候に日本全体が変化していきました。その中で人々も狩りをしながら移動し暮らす生活から、ある特定の場所で猪や鹿などの動物を狩り、木の実や山菜を採って暮らす定住生活へと変化していきました。縄文時代のはじまりです。縄文時代は古い順から「草創期・早期・前期・中期・後期・晩期」の6時期に分けられ、1万年間以上続きました。

縄文時代も旧石器時代と同様、狩猟採集を生活基盤としていますが、この二つの時代を分ける特徴として、縄文時代からはじまる「土器」と「弓矢」の使用、そして「竪穴住居」の出現が挙げられます。沼津市内における縄文時代の遺跡にも、これらの特徴を示す多くの遺物や遺構が発見されています。

展示室内には竪穴住居をイメージしたものや当時の食糧事情について展示しています。

弓矢の矢先につけられた石鏃（せきぞく）

◇展示のみどころ

バラエティ豊かな「縄文土器」

縄文土器には芸術作品ともいえる、文様や形の豊かさ、美しさに目を見張るものもあります。時期や地域ごとに特徴があるので、土器の変化の過程を知ることができます。また出土土器の比較により、当時の人々の交流範囲を知ることもできます。

多種多様な石器

土や石を材料にした様々な道具が登場したのは、獲物を追いかけて移動する生活から定住生活への変化によるものです。木の伐採に使用した「石斧」、ドングリやクリなど堅い殻を持つ木の実の加工に使った「石皿」や「すり石」などから、当時の人々がどのような暮らしをしていたのか、読み解くことができます。

竪穴住居の出現

沼津市で最も古い竪穴住居は愛鷹山麓にある草創期の葛原沢第Ⅳ遺跡で発見されたものです。直径約3.5ｍで50㎝程の深さの整った円形の跡です。竪穴住居により寒さや暑さに耐えることができるようになりました。

左：トロフィー形縄文土器（長井崎遺跡）
右：沼津最古の縄文土器（葛原沢第Ⅳ遺跡）

弥生時代

◆このころの沼津◆

弥生時代には、現在の私たちの生活にも欠かすことのできない稲作の技術が大陸から伝わりました。縄文時代まで続いていた狩猟採集文化から、自分たちで田を耕し、稲を育てて食料を獲得する農耕文化へ日本全体が変化していきました。

沼津市では弥生時代の水田跡は発見されていませんが、西部の雌鹿塚（めがづか）遺跡からは稲作をしていたことを裏付ける、鍬などの木製農耕具が出土しています。また、四角に溝を回した墓である「方形周溝墓」の出現などは、集団を統制する中心的人物の存在が考えられ、後の古墳時代につながる権力者が誕生した時代でもありました。

農耕具の鍬（くわ）
（雌鹿塚遺跡）

◇展示のみどころ

権力者が身に付けたであろうガラス勾玉を作る鋳型（いがた）（植出北Ⅱ遺跡）

農耕具の登場

弥生時代を語る上で欠かせないものは農耕社会の定着ですが、沼津市においては雌鹿塚遺跡から出土した木製農耕具から、その社会の様子を垣間見ることができます。

また生活の変化は土器の形にも影響を与えました。縄文土器は深鉢形のものが多いのに対し、農耕社会では穀物を保管する壺、煮炊き用の甕、食べ物を盛り付ける高坏など新たな形の土器が作られるようになります。

鳥と鹿

弥生時代以前から動物をかたどった製品を作る風習はありましたが、弥生時代になると鳥と鹿が目立つようになります。鳥は神話や風土記において農耕に関わる動物として登場しており、鹿は角の成長と稲の成長を重ね合わせて、土地の神としていたという説もあります。弥生時代の人々にとって、鳥と鹿は豊穣祈願の対象となっていたのでしょう。当センターに展示している鹿形土製品や鳥形木製品・鳥形土器もそのような願いを込めて作られていたのかもしれません。

鳥形木製品（雌鹿塚遺跡）

鳥形土器（植出遺跡）

鹿形土製品
（雌鹿塚遺跡）

展示室内では、多くの弥生土器を展示しています。

古墳時代（飛鳥時代）

◆このころの沼津◆

古墳時代は、その名のとおり古墳が日本各地に築かれた時代で、沼津市でも数多くの古墳が確認されています。西暦２５０年頃～７００年頃まで続き、前期、中期、後期、終末期の４時期に区分されています。沼津市では弥生時代後期における遺跡の増加の結果として、古墳時代初頭に前方後方墳である高尾山古墳が造られます。（P12～13に特集）

前期後半になると、海岸砂礫州上に神明塚古墳、愛鷹山麓に子ノ神古墳といった前方後円墳が築造されます。中期の様子はよくわかっていませんが、後期になると愛鷹山麓に前方後円墳である長塚古墳が築かれ、終末期になると愛鷹山麓や平野部に、多数の小型の円墳が特定の範囲に密集する「群集墳」と呼ばれる古墳群が出現します。

古墳時代の集落は主に平野部で見られ、御幸町遺跡や藤井原遺跡、豆生田遺跡などの集落が多数確認されています。

愛鷹山麓の石川古墳群　石川２号墳の石室

◇展示のみどころ

古墳及び集落遺跡から出土した土器及び金属製品等

土師器や須恵器などの土器、大刀や鉄鏃、馬具などの金属製品を展示しています。また権力者のために作られたと思われる装飾品も多数出土しており、時期ごとに展示しています。

長塚古墳の円筒埴輪と朝顔形円筒埴輪は、被葬者を守護するように配列されていました。

左：円筒埴輪　右：朝顔形円筒埴輪
（いずれも長塚古墳）

古墳から出土した大刀や装飾品（石川古墳群等）

馬具（荒久城山古墳等）

奈良～平安時代

◆このころの沼津◆

7世紀後半（古墳時代終末期）になると、日本では古代国家制度の整備が進み、その一環として鎮護国家思想に基づく仏教を広める政策が実施されました。この結果、古墳時代の象徴であった古墳が、古代になると仏教寺院に変化していきます。

沼津市には古代の仏教寺院として、7世紀後半に建立されたとされる県内最古級の日吉廃寺跡、また火葬した骨壺を納めるための石櫃が出土し、全国でも類例が少ない上円下方墳という形状の清水柳北1号墳があります。

また駿河郡駿河郷が存在し、駿河国の中心地として、重要な役割を果たしていたと考えられます。

◇展示のみどころ

奈良・平安時代の遺跡を、それぞれの特徴から仏教、官衙（役所）、集落に分けて展示しています。

駿河国最古の寺院跡

日吉廃寺跡で出土する瓦は、奈良県明日香村にある山田寺跡の瓦と同じデザインであり、この様式の瓦が使われていることから日吉廃寺跡は駿河国最古の寺院とも呼ばれます。また近年の発掘調査で、仏像の頭髪である「螺髪」や仏像の型を粘土に押し当てて焼いた「塼仏」が出土しています。

蓮の文様がある瓦の一部（日吉廃寺跡）

役人が文字を書く際に使用した肘置き

上ノ段遺跡から出土した唐三彩の陶枕は、文字を書く際の肘置きとされる中国からの輸入品です。このような貴重品を使用できる人物が上ノ段遺跡にいたことを示しています。

復元された唐三彩の陶枕（上ノ段遺跡）

集落に関するもの

千本遺跡、藤井原遺跡、下石田原田遺跡、御幸町遺跡、中原遺跡などから出土した土器や祭祀に伴う遺物、金属製品や鍛冶道具のほか、海産物加工に関連すると考えられる遺物も展示しています。注目されるのは大きな堝形土器で、これで堅魚を煮ていたと考える研究もあります。生産された煮汁は、灰色の小さな壺に詰められ、遠く奈良の都まで運ばれたと考えられています。

奈良時代の集落から出土する土器（藤井原遺跡）

墨書や馬の人形など役所や儀礼に関係する遺物（御幸町遺跡等）

鎌倉～江戸時代

◆このころの沼津◆

沼津地域では11・12世紀の遺跡はほとんど見つかっていませんが、13世紀になると遺跡が見られるようになります。もちろん平安時代後半から鎌倉時代にかけて人々は住んでいたのでしょうが、考古資料が出土する遺跡は少ないです。

この段階の主な遺跡は、香貫山経塚（きょうづか）などの経塚や中原遺跡（一本松）、古城遺跡（興国寺城跡の下層）や下石田原田遺跡などの当時の主要街道沿いの集落に限定されてしまいます。

15世紀後半以降、すなわち戦国時代になると、沼津は駿河国、伊豆国の境目の地であったことから、軍事的に重要な地域と認識され、多くの城が築かれるようになりました。

根古屋にある興国寺城跡

興国寺城跡伝天守台下の石垣

1580年ごろの沼津周辺の城の分布図
戦国時代の沼津は北条・今川・武田・徳川などの諸大名が取り合う場所となったことから、たくさんの城が築かれました。
◆は沼津市内にある主な城

北条氏が使用した禄寿応穏（ろくじゅおうおん）の虎の印判がある最古級の文書（複製写真・豆州内浦漁民史料より転載）

北条早雲旗揚げの城と伝わる興国寺城跡

興国寺城跡は、関東一円を治めた小田原北条氏の祖である北条早雲旗揚げの城として知られています。発掘調査では早雲旗揚げの時期とされる15世紀末頃の遺物も一定量出土していることから、興国寺城がこの時期には既に重要な場所となっていたことが考古学からも裏付けられました。そして早雲旗揚げ以降も、興国寺城は東駿河の拠点の城として機能し続け、北条→今川→北条→武田→徳川→中村（豊臣）→天野（徳川）と17世紀初頭に廃城になるまで、次々と支配者が変わっていきました。発掘調査でもその約百年間に渡るものが出土しています。

駿河湾海戦で知られる長浜城跡

長浜城跡は、戦国時代末頃に北条氏が整備した水軍の城です。城の規模は小さいですが、城の周辺は岬や島に風が遮られ、波が穏やかな良好な港となっていました。ここを拠点に北条氏は武田氏と戦うための水軍の主力を集結させました。

駿河湾海戦で北条水軍が用いた安宅船の復元模型（市立図書館にて展示中）

【コラム】 北条早雲の名前について

早雲の出自は長い間不明とされていましたが、現在は研究が進んで室町幕府高級官僚の伊勢氏の家系で、実名は伊勢新九郎盛時（いせしんくろうもりとき）、出家して伊勢宗瑞（いせそうずい）と名乗ったことがわかっています。北条姓を名乗ったのは息子の代からですので、北条早雲という名前は俗称です。

内浦湾に突き出した長浜城跡

長浜城跡の発掘調査では、掘立柱建物や櫓（やぐら）、岩盤を掘り込んだ堀などが検出されています。いずれも対武田氏に備えた時のものと考えられますが、それ以外に15世紀後半の出土遺物もあることから、北条氏がこの地域を支配する前からもここが利用されていたことがわかりました。

武田氏が築城した三枚橋城と水野氏築城の沼津城

三枚橋城跡は1579年に武田氏が伊豆へ攻め込む足掛かりとして築かれた城です。当初は土づくりの城でしたが、武田氏が滅んだ以降、豊臣氏家臣の中村一栄（かずひで）、もしくは徳川氏家臣の大久保忠佐（ただすけ）によって石垣の城へと改修されたと考えられます。三枚橋城は沼津市で唯一主要部が石垣に覆われた城でしたが、忠佐に後継者がいなかったため、1614年には廃城となりました。

城地は100年程畑地等でしたが、安永年間に沼津藩水野氏によって沼津城が築城されました。明治元年には、沼津城内の建物が近代教育の発祥と言われる沼津兵学校として利用されました。現在本丸は、中央公園として整備されています。

発掘調査で見つかった三枚橋城の石垣

スルガ最初の王が眠る高尾山古墳

邪馬台国の女王卑弥呼の墓と言われる箸墓古墳とほぼ同時期の築造と推定される、東日本最古級、当時においては最大級の前方後方墳。愛鷹山麓の尾根の先端部にあるこの丘から、古代スルガの王は何を見たのでしょうか。
ここでは道路建設が進められていますが、古墳は現地に保存されることとなっています。

高尾山古墳は、愛鷹山麓の尾根と古代の街道が接する東熊堂地区にある古墳時代前期初頭（3世紀中頃）の前方後方墳です。

この場所からは沼津の市街地のみならず東は三島市方面、西は富士市方面を望むことができます。

道路建設計画に伴う平成20・21・26年度の発掘調査の結果、古墳の形状や主体部（埋葬施設）の構造、古墳が作られた過程が判明しました。また出土した副葬品や土器から、被葬者（埋葬された人物）の特徴や古墳の年代が明らかになりました。

◆高尾山古墳の概要

時　代　古墳時代前期初頭
形　状　前方後方墳
規　模　墳丘長62・2m　後方部30・8m　前方部　31・4m
　　周溝幅8～9m程度　南端は2m前後
墳丘構造　尾根を平坦に削り、その上に盛土しています。
　　後方部は平らな黒色土の上に、異なる土を交互に突き固める版築技法によって造られています。
主体部　墓坑（南北5m×東西6m）に木棺直葬（舟形木棺）
副葬品　銅鏡（上方作系浮彫式獣帯鏡）1面、埋葬時に宗教的意図でわざと割った破砕鏡です。
　　勾玉1点、鉄槍2点、ヤリガンナ1点、鉄鏃32点

高尾山古墳の特徴

墳丘の長さが60ｍを超える規模で、出土した遺物から築造された時期は西暦２５０年頃と考えられ、東日本における最古級、当時においては最大級の前方後方墳の一つといえます。

また後方部上にある主体部は、掘り込んだ墓坑の中に舟形状の木棺を直接埋める「木棺直葬」を行っていることがわかり、さらに木棺底面には部分的ですが、朱（水銀朱）が検出されました。また銅鏡、勾玉、鉄製品などの副葬品が出土しています。

この銅鏡や主体部に塗布された朱などから、被葬者は高い経済力と権力があり、また副葬品の大半が槍や鉄鏃などの鉄製の武具であることから、武人的性格が強いことが想像できます。

スルガの王が葬られた主体部

女王卑弥呼と同時代のスルガの王の墓か

弥生時代後半の日本列島では、複数の小国同士の争いが70～80年にわたって続いていた「倭国大乱（わこくたいらん）」という状態であったと中国の史書『三国志 魏書 烏丸鮮卑東夷伝（うがんせんぴとういでん） 倭人条（わじんじょう）』（通称 魏志倭人伝）に記されています。また諸国の王が倭国をまとめるため、女王卑弥呼を共立したとも記されています。

高尾山古墳は、この卑弥呼の墓とされる箸墓（はしはか）古墳（奈良県桜井市）が築造された西暦２５０年頃とほぼ同じ時期に造られた古墳です。このことは畿内に統一的王権が成立する頃に、東国でも独自に王権的な古墳時代へ移行しつつあったことを示す事例といえます。

高尾山古墳からはこの地域周辺で作られた土器に加えて、北陸、近江、東海西部などの他地域の特徴が見られる土器が出土しています。また沼津周辺で作られた土器が全国各地、特に東日本を中心に広がっていることも、近年の研究で明らかになってきました。このように高尾山古墳は古墳時代初期において沼津の地に相当の権力を持った人物がいたことを示し、さらに当時の社会状況を解明する手がかりとなる重要な遺跡なのです。

◇展示のみどころ

発掘調査の際に剥（は）ぎ取りを行った主体部や朱、主体部から出土した銅鏡などの副葬品、周溝などから出土した土器を展示するとともに、古墳の概要について解説しています。

鏡・槍などの副葬品

周溝から出土した土器

沼津市指定文化財等一覧

令和５年４月現在

国指定（14件）

種別	名称	指定年月日	所在
建造物	松城家住宅　７棟	平18.7.5	戸田
絵画	紙本著色山王靈驗記	昭25.8.29 （旧指定S2.4.15）	東京国立博物館
工芸品	太刀　銘一	昭27.11.22	佐野美術館
工芸品	短刀銘備中國住守次作 延文二年八月日	昭27.7.19	大岡
工芸品	太刀　銘眞長 附絲巻太刀拵	昭29.3.20	佐野美術館
工芸品	沈金獅子牡丹文長覆輪 太刀拵	昭29.3.20	佐野美術館
工芸品	金銅聖観音像懸仏	昭39.5.26	千本常盤町
典籍	宝物集巻第一 附原表紙	平6.6.28	岡宮
史跡	休場遺跡	昭54.1.24	宮本字元野ほか
史跡	長浜城跡	昭63.5.13 追加 H14.12.19	内浦長浜ほか
史跡	興国寺城跡	平7.3.17 追加 H12.3.7 追加 H19.7.26 追加 H24.9.19	根古屋字古城ほか
名勝	旧沼津御用邸苑地	平28.10.3	下香貫
天然記念物	大瀬崎のビャクシン樹林	昭7.7.25	西浦江梨
重要有形民俗文化財	沼津内浦・静浦及び周辺 地域の漁撈用具	平22.3.11	歴史民俗資料館

県指定（28件）

種別	名称	指定年月日	所在
絵画	白隠自画像	昭43.7.2	原東町
工芸	槍　名物蜻蛉切	昭30.2.25	佐野美術館
工芸	太刀　銘景則	昭30.4.19	佐野美術館
工芸	太刀　銘備州長船住近景	昭30.4.19	佐野美術館
工芸	太刀　銘了戒	昭30.4.19	佐野美術館
工芸	刀　銘津田越前守助廣	昭30.4.19	佐野美術館
工芸	短刀　銘信國　倶利伽羅 透彫	昭32.5.13	佐野美術館
工芸	梵鐘	昭31.10.17	本郷町
典籍	科註妙法蓮華経	昭30.4.19	原東町
古文書	法門聴聞集 附連々聴聞集 日弁消息 日意筆法門聴聞集表題 並びに奥書	平6.3.25	岡宮
考古資料	玉砥石	昭31.5.24	平町
考古資料	蔵骨器	昭31.10.17	本郷町
考古資料	子持勾玉　附臼玉他滑石 製模造品	昭33.9.2	歴史民俗資料館
考古資料	植出北Ⅱ遺跡出土ガラス 勾玉鎔笵４点	令2.12.8	志下
歴史資料	繍字法華経　附１幅	平8.11.18	岡宮
有形民俗	大瀬神社奉納漁船模型	昭56.10.23	西浦江梨
有形民俗	浮島沼周辺の農耕生産 用具	平2.3.20	歴史民俗資料館
無形民俗	戸田の漁師踊・漁師唄	昭54.11.19	戸田
無形民俗	江浦の水祝儀	平11.3.15	江浦
史跡	白隠禅師墓	昭29.1.30	原東町
史跡	江浦横穴群	昭52.3.18	江浦
史跡	洋式帆船建造地及びブ チャーチン宿所 附関係遺品一括	昭42.10.11 追加・名称変更 昭56.10.23	戸田
史跡	井田松江古墳群	平7.3.20	井田
史跡	長塚古墳	平11.11.16	東沢田
天然記念物	岡宮浅間神社のクス	昭44.5.30	岡宮
天然記念物	御浜岬のイヌマキ群生地	昭55.11.28	戸田
天然記念物	鮎壷の滝	平8.3.12	大岡ほか
天然記念物	河内の大スギ	平14.3.22	西浦河内

沼津市内には多くの文化財がありますが、特に貴重なものや保存が必要なものについて、指定や登録をしています。

国登録（13件）

種別	名称	指定年月日	所在
建造物	光長寺御宝蔵	平12.2.15	岡宮
建造物	大中寺恩香殿	平12.4.28	中沢田
建造物	大中寺通玄橋	平12.4.28	中沢田
建造物	安田屋旅館松棟	平12.4.28	内浦三津
建造物	安田屋旅館月棟	平12.4.28	内浦三津
建造物	沼津倶楽部北棟	平27.3.26	千本郷林
建造物	沼津倶楽部南棟	平27.3.26	千本郷林
建造物	沼津倶楽部長屋門	平27.3.26	千本郷林
建造物	松蔭寺開山堂	平28.8.1	原東町
建造物	松蔭寺山門	平28.8.1	原東町
建造物	小栗家住宅主屋	令2.4.3	上香貫字槙島町
建造物	海瀬家住宅主屋	登録予定	西浦河内
記念物関係	帯笑園	平24.9.19	原西町

市指定（46件）

種別	名称	指定年月日	所在
建造物	禅長寺頼政堂	平12.3.31	西浦河内
建造物	赤野観音堂	平12.3.31	柳沢
建造物	大川家長屋門	平20.1.17	内浦長浜
絵画	涅槃図	平21.3.30	下河原町
彫刻	木造十一面観世音菩薩 立像	昭47.12.14	柳沢
彫刻	木造阿弥陀如来三尊立 像	昭47.12.14	下小路町
彫刻	木造盧舎那仏坐像	昭47.12.14	市道町
彫刻	木造地蔵菩薩坐像	昭50.5.8	大岡
彫刻	木造伝月光菩薩立像	昭50.5.8	歴史民俗資料館
彫刻	木造観世音菩薩立像	昭50.5.8	大平
彫刻	木造阿弥陀如来立像	昭50.5.8	西浦河内
彫刻	木造金剛力士像　阿形・ 吽形	昭50.5.8	岡宮
彫刻	木造釈迦如来坐像	昭50.5.8	下河原町
彫刻	木造観世音菩薩立像	昭55.5.15	大平
彫刻	木造白隠禅師坐像	平29.3.28	原東町
工芸	千手観音像懸仏	平15.1.31	西浦河内
工芸	大日如来像懸仏	平15.1.31	西浦河内
工芸	諸口神社の鰐口	平18.3.28	戸田
書跡	京極為兼卿書状	昭60.2.21	平町
古文書	今川氏親生母伊勢氏寺 領寄進状	昭47.12.14	下小路町
古文書	今川氏親生母伊勢氏寄 進寺領書立	昭47.12.14	下小路町
古文書	今川氏親棟別役免除朱 印状	昭47.12.14	下小路町
古文書	獅子浜植松家戦国文書	平23.2.8	明治史料館
考古資料	休場遺跡出土細石器	昭58.12.15	志下
考古資料	軒通遺跡出土壺形土器	昭58.12.15	志下
考古資料	三角縁神獣鏡	平20.1.17	中沢田
歴史資料	輿地航海図	昭59.4.19	明治史料館
歴史資料	大平村絵図	平2.3.29	大平
歴史資料	三枚橋絵図	平2.3.29	歴史民俗資料館
歴史資料	沼津宿絵図	平2.3.29	歴史民俗資料館
歴史資料	本町絵図	平2.3.29	歴史民俗資料館
歴史資料	上香貫絵図	平2.3.29	歴史民俗資料館
歴史資料	井田の不動明王像	平18.3.28	井田
歴史資料	ディアナ号の錨	平18.3.28	戸田
有形民俗	沼津沿岸の漁撈に関する 奉納絵馬	令4.9.8	歴史民俗資料館 ほか
史跡	神明塚古墳	昭45.2.19	松長
史跡	子ノ神古墳	昭45.2.19	西沢田
史跡	日吉廃寺塔址及び礎石	昭45.2.19	大岡
史跡	霊山寺変形宝篋印塔	昭45.2.19	本郷町
史跡	霊山寺五輪塔	昭45.2.19	本郷町
史跡	伝阿野全成・時元墓	昭58.6.15	井出
史跡	日露交渉地跡大行寺	平18.3.28	戸田
天然記念物	久連神社社叢	昭52.12.22	西浦久連
天然記念物	赤野観音堂のカヤ	昭52.12.22	柳沢
天然記念物	河内の稲荷スギ	平15.1.31	西浦河内
天然記念物	部田神社のコブ付大クス	平18.3.28	戸田

沼津市内の主な遺跡マップ

※展示室にて解説をしている遺跡を中心に主要なものを掲載しています。

▲第１展示室
旧石器、縄文、弥生時代を展示

▲第２展示室
古墳、奈良・平安、戦国時代を展示

▲第３展示室
注目の高尾山古墳出土品を展示

沼津の文化財情報の発信地 沼津市文化財センター

文化財センターでは、文化財保護法に基づき、市内の史跡や建造物などの文化財や埋蔵文化財の保存・活用に取り組んでいます。

【企画の仕事】文化財の価値を後世に伝える仕事をしています。文化財の修復、史跡等の整備、説明看板の設置、土地管理、防火訓練、病害虫防除など。

【調査の仕事】貴重な遺跡の記録を残すための仕事をしています。土木工事などの前に、そこに遺跡があるかを確認します。遺跡があれば、状況を確認し、出土遺物を調査し、遺跡の報告書を作成します。

〒410-0106
静岡県沼津市志下 530
TEL：055-935-5010
FAX：055-933-1270
mail：cul-bunkazai@city.numazu.lg.jp

【展示室の見学は、平日９時～ 16 時 30 分】

案 内 図

【公共交通機関のご案内】
ＪＲ沼津駅南口バスターミナルから約 16 分
・東海バスオレンジシャトル西浦線　又は
・伊豆箱根バス伊豆長岡線　に乗車
「志下公会堂前」下車後、東に徒歩約５分